

観天 望気

つながりを築く

日本の2023年度の食料自給率はわずか38%、飼料自給率に至っては27%にとどまっています。一方で、年間の食品ロス発生量は約464万ト(23年度)にも上ります。このような現状を前に、私たち外食企業にできることはないだろうか。そんな問いに向き合うなかで、「コーヒー抽出後に残る『かす』を、何かの役に立てたい」という従業員の想いが重なり、14年、コーヒーかすを飼料や堆肥として再利用する取り組みが始まりました。

これは食品リサイクル法の再生利用事業計画認定を取得して運用しており、コーヒーかすの飼料を食べた牛のミルクや、堆肥を利用してできた野菜や抹茶を、店舗で販売する商品の原材料として活用しています。現在この認定内でリサイクルしている319店舗を含め、コーヒーかすをリサイクルする店舗は約1000店舗、年間約4000トの廃棄物削減につながっています。

スターバックスは創業以来、ビジネスと社会貢献を両立するという想いを大切にしてきました。特に人・地球・コミュニティに対してポジティブなインパクトをもたらせるよう取り組んできました。このリサイクルは、資源の循環を通して地球にいいインパクトを及ぼすことをめざしていますが、それだけでなく、私たちにコーヒー以外の生産者の方々との交流をもたらせてくれました。牧場を訪れると、酪農家の牛への深い愛情やおいしさへのこだわりに触れることができます。茶園を訪ねれば、抹茶の生産農家の方が手間暇を惜しまず育てた茶葉を見つめる温かい眼差しを目の当たりにします。その想いは私たちスターバックスのパートナーがコーヒーに対して抱いている愛情やこだわりと、まさに同じものであると感じました。

私たちはコーヒーかすのリサイクルを起点に、これからも多くの方々と協力し合いながら、サーキュラーな(資源が循環する)サプライチェーンへの転換を実現し、生産者の想いを商品と共にお客さまに届ける活動を続けていきたいと思っています。



村上 理

スターバックス コーヒー ジャパン株式会社
サプライチェーン・マネジメント本部 本部長

むらかみ おさむ

1994年明治大学を卒業後、株式会社富士銀行入行。2001年スターバックス コーヒー ジャパン株式会社入社。サプライチェーン、事業開発、経営企画を経て、現在はサプライチェーン・マネジメント本部の本部長として、品質保証、物流、SCM全般、およびサステナビリティを担当。